

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 4 回審議会				
日 時	平成 25 年 12 月 20 日 ( 金 ) 午後 3 時 30 分 ~ 5 時 30 分				
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室				
出席者	委 員	○ 奥西 隆三	○ 向山 ひろ子	○ 清水 桂子	
		○ 門脇 洋子	× 弓指 義弘	○ 六嶋 由美子	
		× 迫 きよみ	○ 石田 光春	○ 木村 孝	
		○ 杉本 厚夫	○ 桑原 千幸	○ 長積 仁	
		○ 森川 知史	○ 小宮山 恭子	○ 西山 正一	
	事 務 局	○ 藤原 千鶴 ( 教育部次長(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長 )			
		○ 山下 一也 ( 教育改革推進室長 )			
		○ 安達 昌子 ( 生涯学習課主幹 ( 兼 ) 生涯学習センター主幹 )			
		○ 川瀬 章治 ( 生涯学習課主幹 )			
		○ 西村 比呂支 ( 生涯学習課生涯スポーツ係長 )			
		× 北池 顕子 ( 生涯学習課事業係長 ( 兼 ) 生涯学習センター主査 )			
		○ 前田 紘子 ( 生涯学習課生涯学習係長 )			
		○ 粕谷 祐次 ( 生涯学習課生涯学習係主任 )			
	○ 西田 知世 ( 生涯学習課生涯学習係主事 )				
傍聴者	0 名				

会議要旨は、下記のとおりである。

前回の会議録について、修正事項なし。

(事務局)

1. 報告事項

・第 55 回全国社会教育研究大会 ( 三重大会 ) について

平成 25 年 10 月 23 日 ~ 25 日開催。出席委員 3 名。全体会は三重県営サンアリーナで行われた。開会行事の中では、長年の功績を称えられ、杉本委員が一般社団法人全国社会教育委員連合表彰を受けられた。翌日は 5 つの分科会の中から、志摩市阿児アリーナにて第 3 分科会「地域を大切にする」に参加した。来年の全国大会は平成 26 年 10 月 23 日、24 日に徳島県で行われる予定である。

・平成 25 年度京都府社会教育研究大会について

平成 25 年 11 月 28 日、南丹市美山文化ホールにて開催。出席委員 7 名。「社会教育委員としての地域のきずなづくり ~ 福島県双葉町の支援活動を通して」というテーマで京丹波町社会教育委員より発表があった。会長らによる三重大会の報告があり、その後

は三重大会の分科会を引き継いで 5 つのラウンドテーブルに分かれて参加した。

(委員)

三重大会では、第三分科会「地域を大切にする」に参加した。

事例発表について、一つ目は静岡市清水区の「子育て商店街のしくみづくり」。NPO 法人「まちづくり考房 SHIMIZU」と「まちなびや」によるもので、商店街の活性化と子どもの職業体験を目的としている。私が所属する団体とは種類が違って、興味深い発想だと思った。

二つ目は富山県氷見市の社会教育指導委員による「学びの場を核とした地域の新たな絆づくり」。市町村合併により小学校・公民館がそれぞれ統合されたため、新たなつながりを作ろうと、両公民館が実施された諸活動を報告された。この地域では、全ての団体が公民館に所属しており、動ける仕組みがある。

これらの発表を自分なりにまとめ、府研究大会では「世代間を超えた人と人との交わりで地域を元気にしていく取り組みを考える」という議論を投げかけたが、的外れな質問や、否定しない場はずが否定的な意見が出され、満足な論議ができなかったと感じている。

(委員)

三重大会、特に社会教育実践交流広場では、子どもをテーマにしたものが多かった。

子どもを前面に出せば、参加者が増えると思っていたのだろうか。

学習成果の発表「子供木遣」では、発表中でもあまり積極的でない子どもが見られ残念だった。その後の「安乗の人形芝居」のように、真剣でなければ意味がない。

シンポジウムでは、地元の企業と一緒に活動するということが印象に残っている。例えば東北地方にボランティア活動に行く時も、地域の支援が必要になる。現代のボランティア活動は、現地のためだけでなく、それを元に人とのつながりを築く方向にある。

府研究大会のラウンドテーブルでは、子どもにスマートフォンを渡してゲームをさせておくという「子守りスマホ」の話などが話題になった。

(事務局)

・ 「生涯学習の秋！人材バンクの展示と体験コーナー」について

平成 25 年 10 月 28 日(月)から 11 月 1 日(金)までの 5 日間、宇治市役所本庁舎 1 階ギャラリーコーナーにて開催。登録講師による展示と体験の機会を設け、より多くの方に人材バンクを知ってもらうことを目的とした。日替わりで作品づくりや健康体操の体験などを実施し、述べ 75 名の参加者があった。また、会場に人材バンクの概要版冊子を設置して 40 部を配布することができた。当審議会の西山委員にも出展していただいた。

(委員)

当日は、昨年の京都府南部地域豪雨災害と、今年の台風による避難勧告について自分なりにまとめた資料を配布した。体験した者が記録し、伝えることが防災の基本だと思う。私の作った資料を家庭に持ち帰り、有事の際に役立ててくれればと思う。そのためにも自分で撮った写真を多数収めた。

(事務局)

・ 宇治市教育の日「子ども読書フェスタうじ」の開催について

宇治市では 11 月第一土曜日を「宇治市教育の日」と定め毎年事業を行っている。また、11 月 1 日は「宇治市子ども読書の日」であり、国で定める「古典の日」でもある。今年はこれらを合わせて平成 25 年 11 月 2 日(土)に「子ども読書フェスタうじ」として開催し、177 名の参加者があった。当審議会の六嶋委員にも講演と、指導している子ども達の朗読劇の発表をしていただいた。サークル「おはなしたまてばこ」によるストーリーテリングや、パネル展示による子どもの作品発表もあった。

(委員)

普段語り部活動をしているが、自分の活動について話すのは初めてだった。自分の活動を系統立ててまとめることができたし、子ども達にも発表の機会になり良かった。

・ 今後の事業について

➤平成 26 年宇治市成人式について

平成 26 年 1 月 13 日(月・祝)に宇治市文化センターで開催予定。対象者は住民票のある 1,909 人となっており、成人式のパンフレットや記念品(クリアファイル)各種おしらせなどを発送した。当日は 14 時から第一部記念式典、14 時 20 分から第二部特別企画が行われる。第二部特別企画は 7 月より会議を重ねた新成人の実行委員会による企画で、当日の司会も全て実行委員が行う。企画内容は、ご当地キャラクターによるステージをはじめ、恩師のビデオレター、ゲストステージ、抽選会となっている。また、実行委員によるアイデアで、「未来ポスト」という、10 年後の自分にハガキを出そうという企画があり、先着 100 名限定で、無料で参加できる。

➤宇治市ジュニア文化賞等及び宇治市スポーツ賞について

いずれも対象は平成 25 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間に優秀な成績を収めた者であり、募集は平成 26 年 1 月 10 日まで。1 月下旬の選考会を経て、表彰は 3 月 1 日の市政施行記念日に行われる。

➤第 30 回宇治川マラソン大会について

平成 26 年 2 月 23 日(日)開催予定。2 年ぶりの開催となる。今回の変更点は、5 キロコースのみ開始が 5 分早いこと、全コースともに人数制限を設けていること、参

加費用が値上がりしたこと、コース内容が若干変更されたことが挙げられる。また、30 回記念大会ということで、NPO 法人と共同してツイッター等で広報をし、当日ウェブ上で実況中継をする。申込みは本日までだが、現時点でハーフマラソンは満員、10 キロもほとんど埋まっている状況である。

➤第 21 回市民まなびの集い「宇治まなびんぐ 2014」の開催について

平成 26 年 2 月 8 日（土）、9 日（日）に生涯学習センターで開催予定。学びの場の提供として、実行委員会形式を採っている。出展者は 47 件（個人・団体）で、そのうち人材バンク登録講師は 10 件（個人・団体）となっている。

・生涯学習事業関連調査について

「宇治市生涯学習推進プラン（宇治まなび AIUEO プラン）」に基づき、生涯学習の取り組みについて全庁的に調査したもの。今回は平成 24 年度に実施した事業についての点検を行い、集計した。対象となる事業は合計 283 件。数値による目標値・達成度の評価と、記述による評価について集計した。また「社会還元」という項目について注目した。次回は平成 26 年 2 月に、平成 26 年度実施予定の事業について調査する。

（委員）

人材バンクの利用率はどのくらいあるのか。

（事務局）

現在の登録者数は 112 件。毎年登録講師向けのアンケートを実施しており、今回は回収した 98 件のうち 25 件が「利用あり」と回答した。利用率については課題としていところなので、登録講師向けの研修会等の開催を検討している。

2. 協議事項

・今期の研究テーマについて

（委員長）

大きなテーマは社会教育・社会教育委員が何をするのかという議論だと思う。これまで様々な意見が出たが、過去に出た問題との関連も考慮して検討している。宇治市教育振興基本計画策定委員会では、メンバーの半数を当審議会委員が占める。本市において社会教育委員がどのように学校教育に関わっていくのかという事は大きなテーマである。例えば、学校によって活動に温度差があることを均等にするためのコーディネート役割が我々にあるのではないかとということも、テーマの一つになると思う。

（委員）

私は自分が所属している団体では、特に意識せずともボランティア等の活動をして

いるが、社会教育委員として何ができるかと言われると悩む。当審議会では「自分の所属している団体ではこうしている」等の意見に留まる傾向があり、毎回同じような感じになってしまうところを何とかしたい。

(委員長)

その通りだと思う。社会教育委員は具体的に活動するべきではなく、議論し答申をするべきだと思う。今までのように一般論を取り上げるより、現在本市では具体的に何が求められているのかを、大枠で捉えることが必要だと思う。

(委員)

府研究大会の全体会では、杉本委員が大阪マラソンにおける「イベントミックス」について話していた。「自分の所属する会ではこうしている」ではなく、違うものを結び付けていくという意識が広がればと思う。

(委員)

来年は大阪冬の陣 400 周年になるので、大阪マラソンではイベントを合わせて行う案が出ている。歩こう会が観客となり、歩くイベントをミックスするのも面白い。自分の団体だけだと閉鎖的になってしまうので、違う団体とのつながりを作ることがプラスになる。例えば子ども会など、子どもをめぐる団体が複数あり、結果的に子どもの取り合いになってしまっている現状があるので、一緒にやっていければいいと思う。

(委員長)

イベントミックスをするにしても、ミックスさせる仕掛けが必要になってくる。

(委員)

宇治川マラソン大会は、組織のミックスになっている。

(委員)

宇治川マラソン大会は、スポーツ団体だけでなく市内の全ての団体が一緒になっている。ボランティア団体も実施の決定を待ってくれている。全国から人が集まり、宿泊施設は全て埋まってしまうため、市観光協会も力を入れている。自衛隊からも協力の申入れがあった。第 30 回を迎え、新しい試みをしてもいいと思う。

(委員)

大阪マラソンでは、参加より参画を目指している。「家族の絆を深める大阪マラソン」をキャッチフレーズにしようかと思っている。出場する家族の応援に行く人が多く、家族で抱き合っている場面をよく見る。最近は旅行がてら遠方から参加する人が多く、宇治川マラソン大会でも、市内在住者は参加者の 15%程度しかいないという。

(委員)

学校側が一定コーディネートのリーダーシップを採ることが多く、ボランティア側が事務局を作って会議や活動をするところまで高められる地域は少ない。また、保護者の孤立の問題も切実で、常識が浸透しない家族、どの団体にも所属したがない保護者がいる。子育ての観点から、孤立する保護者をなんとか地域に入れて支援できる体制ができたらと思う。

(委員長)

全国的に公民館も減少し、社会教育の予算が削られ、動かしたいが動かせないという状況がある。

(委員)

地域の教育力という言葉が言われていたが、地域というものが崩壊しつつある。コミュニティの再生をテーマにしてはどうか。児童虐待だけでなく、何らかの目的のための地域コミュニティがあれば、いい方向に向いていくのではないかと思う

(委員長)

先ほど大阪マラソンの話が出たが、スポーツは何か仕掛けをしやすいと思う。前回までにスポーツの意見もたくさん出たが、その方向でもいいと思う。

(委員)

研修等で社会教育委員として何ができるか考えたときに、市民でもなく、何の団体にも属していない自分の立場では何もできないと思った。コーディネーターというものは様々な分野の団体が集まってこそできる。「宇治市教育振興基本計画(案)」でも「市民の社会還元力」を目指すとあったが、何かを仕掛けていかないと実現できないと思う。様々な団体が活動していけるよう、仕掛けを作ることができたらと思う。

(委員長)

每期議論・答申をし、「こうあるべきだ」で終わってしまう。そこから出て、仕掛けを作っていければと思う。何にせよテーマを決めなければ議論できない。

(委員)

サッカー、剣道、野球等のスポーツ少年団を見ていると、月曜日に学校で眠たそうにしている子が多い傾向がある。その理由は夜に食事等で一緒に過ごしているからだ。人は飲食を共にすると親密感が増すので、行事でも時間が来たら終わりではなく、参加者も片付けに加わる等すると意識も変わるだろう。片付けが終わってから食べたり飲んだりするのも効果的だ。仕掛けを作るなら、食べる要素を入れてもいいのでは。

(委員長)

東北では「芋煮会」が盛んで、上京しても同郷の者で集まって続けているという。

(委員)

宇治には、お茶を飲んで品名を当てる「茶香服(ちゃかぶき)」がある。

(委員)

社会還元について、自分で学んだことを教えたり広めたりすることは必要だと思う。高齢者でも、学校に行って子どもと遊んでいると力をもらえたという意見を聞いた。成人式実行委員会がOB会のような形で組織的に残って、イベント等に参加したり、能力を発揮したりする機会になれば、地域の活動に関わっていく若い人材の育成につながると思う。講座を開くにしても、趣味で終わらない、地域活動に還元する目的を持ってほしいと思う。社会還元を目標にした学びの場づくりとコミュニティの再生について、社会教育委員が隙間を埋めていく仕掛けづくりが議論できたらいい。

(事務局)

成人式実行委員会は組織的な継続はないが、個人的に活動している人、市の職員になっている人もいる。

(委員)

宇治茶は高級なもので身近ではない。テレビ等で有名になっているが、子ども達にはなじみがない。世界文化遺産に登録しようとする動きがあるが、より敷居が高くなってしまっているのではないかと。人材バンクにも宇治茶に精通する人が少ない。お茶を取り込んだ特色づくりの仕掛けができないかと思う。

(委員長)

大学で宇治学を授業としているが、お茶は難しい問題だ。重要な産業だが、一つに束ねて話ができない。宇治茶を通して文化を広められれば良いが、関係団体の協力を得ることは難しい。宇治茶は元々日常のお茶でなく、敷居が高いことも理由である。

(委員)

小倉小学校のデイサービスセンターでは、年に1回子どものお手前の発表がある。茶業関係の若い方が来て、茶香服も恒例になっている。参観日に行い親子で見に来る。

(委員)

企業と連携して活動することで、企業に社会教育への理解を求めるということも、一つのテーマになると思う。近年は家庭や地域が問題とされているが、企業側の事情でそういう場へ送り出してもらえない場合もある。知り合いの社会教育委員で会社を

## 第6期宇治市生涯学習審議会 会議録

経営している人がいて、社会活動のために有給休暇を与えているという。大企業ではボランティア活動などに有給を与えている。社会貢献活動に対する企業のバックアップ（資金面よりも人を送り出すこと）が必要だと思う。社会教育活動が広まるための阻害要因が企業ならば、そこを解消するのが社会教育委員の役割と思う。

（委員）

「京都府女性の船」という宿泊研修があり、今までは60歳までだったが、最近は年齢制限なく誰でも参加できるようになった。開催最低人数は100人だが、参加者が減少してきた。いろいろと呼びかけていると、行政や企業からの参加者が増えてきた。企業側でもそういう研修に人を出す動きが少しずつ広まってきているように感じる。

（委員）

社会福祉協議会では、企業の方を対象に認知症についての講習会を行っている。

（委員）

久御山町のある企業は勤務時間中に子育て講演会をしていた。子育てする人にもやはり仕事があり、本当に必要な人のところに講習が行き渡らないことが様々な問題を引き起こす。企業のバックアップの一つだと思う。

（委員）

府では子育てに優しい企業を表彰している。最近では、この評価が高い企業に若者が入りたがる。

（委員）

事業税を安くしてその余剰分で社員の有給休暇を与えるなど、こういう企業が優遇されるような施策ができればいいと思う。

（委員）

宇治川マラソン大会について、少し前から山崎製パンより1,000~2,000個のパンの提供があり、参加者からの評判も良い。以前はこちらから各企業にお願いしていたが、市内のスポーツ用品店から500円の割引券の提供があるなど、定着してきている。

（委員）

人材バンクのスポーツの分野には、大塚製薬株式会社が登録されている。

（事務局）

熱中症対策や中高年向けの栄養に関する講座をしていただいたことがある。商品名を伏せる等して、営業にならないよう調整している。

(委員)

宇治茶の話に興味を持った。伝統文化の保持・刷新は重要なことなので、どうにかしたい。市の組織が部局を超えて、全体の発展に資するための連携ができればと思う。例えば宇治茶でいうと、産業振興と地域の振興、伝統文化を守る、社会教育などの多分野にまたがる活動を一緒にできる方法があればと思う。成果を出していくには、先進地域の成果を研究していくことが必要で、スポーツによって地域が結びつくソーシャルキャピタルをテーマにしても、議論しやすいのではないかと思う。また、最近は一脱に代わって「スネップ」という言葉がある。ひきこもって教育もされていない子ども達のことである。そういう子どもたちが自立できるのか危惧するところがある。学校教育を交えて議論できるのではないか。どれも興味のあるテーマである。

(委員長)

ある程度方向ができてまとまってきたと思う。次回にはタイトルを決定したい。今期は議論や答申に終わるのではなく、仕掛けづくりも目指したいと考えている。

(委員)

11月に福島の会津、郡山、いわきに行き、現地の女性たちと話をした。地域の弱いところを見つめることが社会教育に必要だと思う。聞いた話によると、被災地でも避難生活が長引くと、高齢者は浪費家と節約家に二分化していき、子どもは孤立する傾向にある。そこで、交流の場を設けることが軌道修正になりうる。復興後に情報が遮断されている中、自分たちで情報を発信するために「浜風商店街」が作られた。そこにはいつでも人が集まって交流できる場所があり、子ども達のスクールバス乗り場があり、高齢者とのふれあいがある。コミュニティの重要さを感じている。

### 3. その他

- ・平成 25 年度山城地方社会教育委員連絡協議会研修会について  
(事務局)

平成 26 年 1 月 24 日(金)午後 1 時半より、八幡市で開催。三つの分科会に分かれていただくが、そのひとつでは本審議会の六嶋委員に課題提起を行ってもらう。

< 次回の会議について >

平成 26 年 2 月 12 日(水)午後 2 時 00 分から